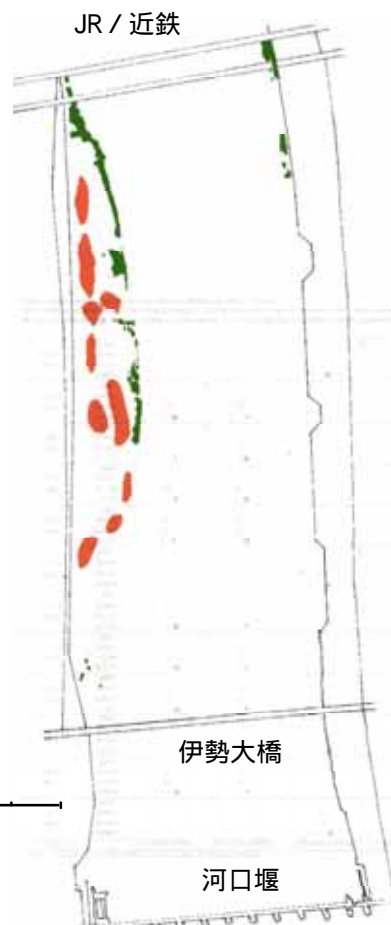


## 河口堰湛水域におけるヨシ群落の衰退と開門調査による回復の可能性

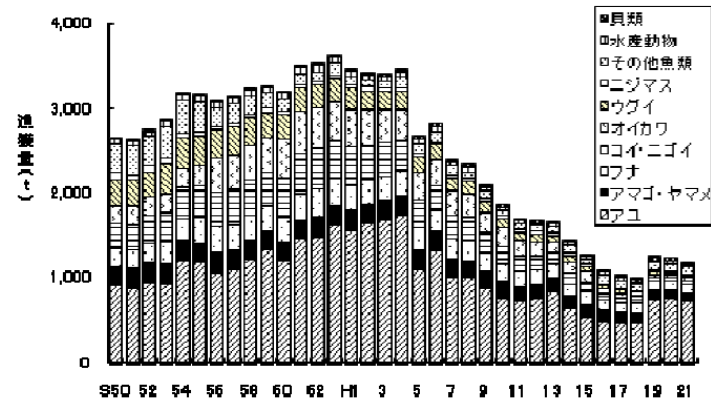
1994年  
15.4 ha2002年  
0.7 ha (残存率 4.5%)

- 衰退した原因は水位変化の減少  
→潮汐による水位変動が回復すれば再生する (塩分は必ずしも必要ない)
- 再生する範囲
  - 伊勢大橋ー長良大橋間の34.4ha (現在は約1/10の3.8haに減少)
  - 長良大橋より上流の河岸の浚渫されていない場所
- 再生可能とする根拠
  - ヨシ群落のあった地形は浚渫せず保全が図られた
  - ヨシが絶滅したわけではなく、少しは残存している

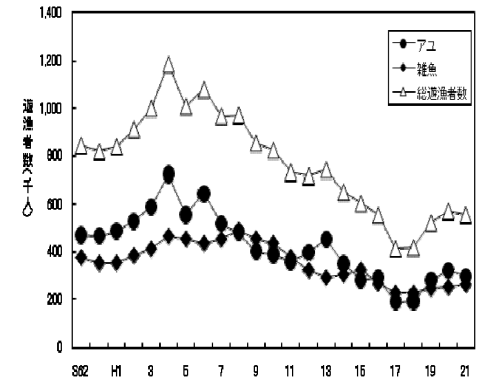
図： 山内ほか(2010)より

## アユ(通し回遊魚)への 影響(検討中)

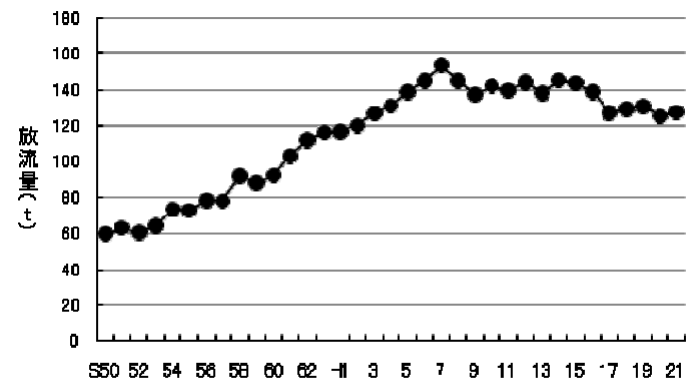
- アユの漁獲量は遊漁者数を反映している  
(漁獲量 ≠ 資源量)
- 資源量(アユの個体数)の河口堰運用前後の変化を推定するには、漁獲量以外の指標が必要
- 漁業者等の「アユが獲れなくなった(釣れなくなった)」という意見は、単位努力量当たりの捕獲数(CPUE)を反映している可能性がある



第8図 漁獲量の推移 (資料 河川漁業動態調査)



第11図 遊漁者数の推移 (資料 遡流状況調査)



第6図 アユの放流量の推移 (資料 河川漁業動態調査)

図:「岐阜県の水産業」より引用

長良川河口堰による  
沿岸環境への影響  
(検討中)

シャコ  
貧酸素水塊が発生することで  
資源が減少することが知られている

クルマエビ  
稚エビの生育に干潟が必要

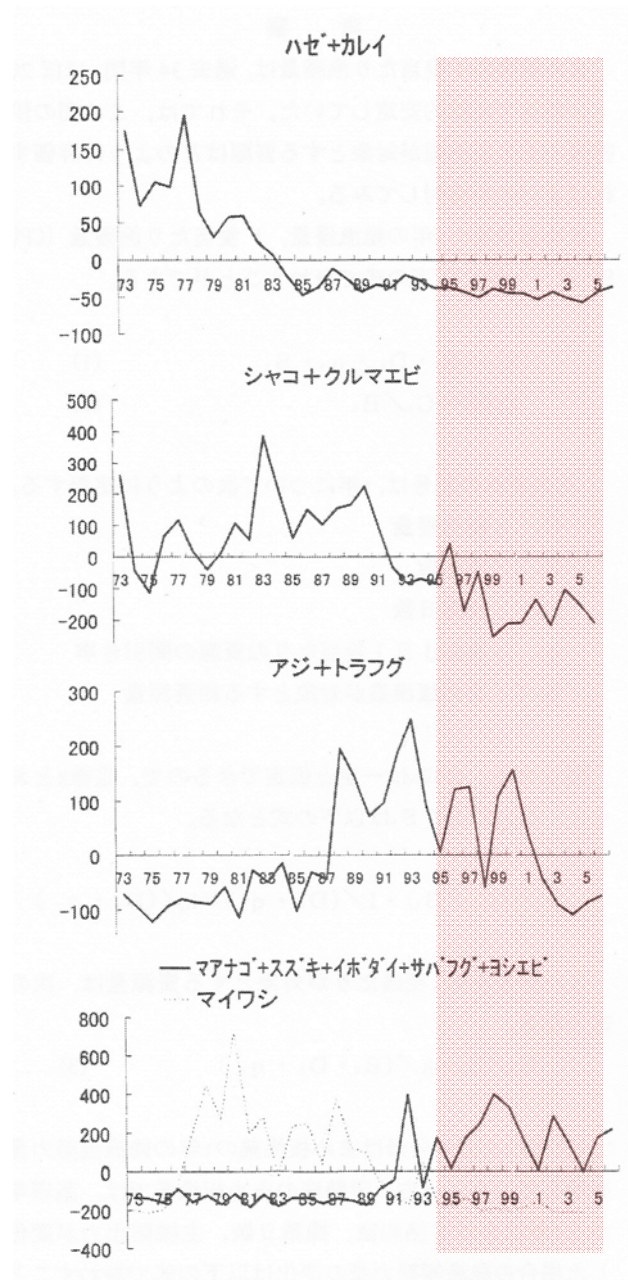


図7 卓越種の変遷 単位；トン  
マイワシは愛知県の統計値を使った。

図：船越(2008)より引用